

ねぎでシロイチモジヨトウの発生量が多い

～発生を確認したら、直ちに薬剤防除を行いましょう～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

防除適期決定ほ（2023年調査開始）におけるシロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺数は7月下旬頃から増加し、8月1～3半旬までの総誘殺数は、秋田市が499頭（2023年86頭、2024年22頭）、能代市が302頭（2023年81頭、2024年34頭）でいずれも過去2年間と比較して多かった（図－1、2）。

ねぎ（秋冬どり）の8月後半の巡回調査（10地点）では、食害株率が4.9%（平年1.0%）、同地点率が50.0%（平年13.0%）でいずれも高かった（図－3、4、5、6）。

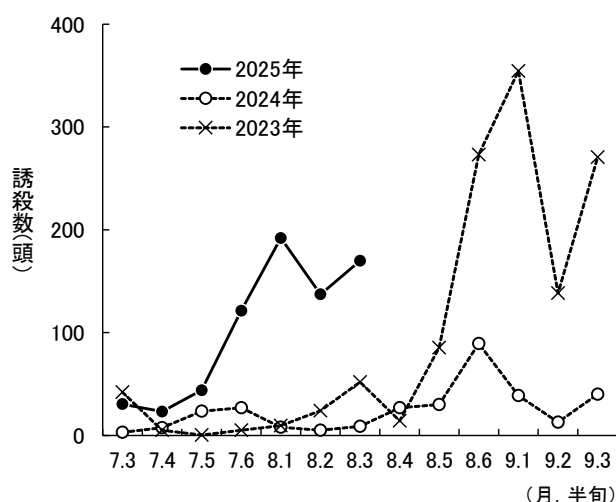
8月14日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高いと予報されている。

以上のことから、今後もねぎ（秋冬どり）で本虫による食害が多くなると予想されることから、以下の防除対策を行う。

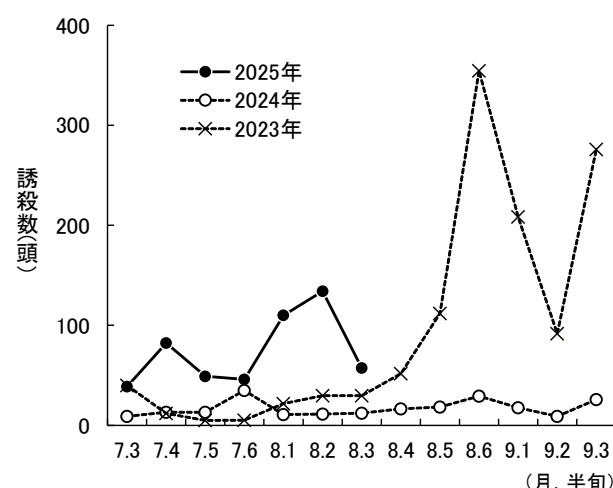
2. 防除対策

- 1) ほ場をよく観察し、卵塊やふ化幼虫の群生が見られる葉は取り除き、適切に処分する。
- 2) ふ化後、幼虫は短時間で葉内に食入し薬剤がかかりにくくなるため、発生を確認後、直ちに表－1で示す防除薬剤を散布する。
- 3) 老齢幼虫に対しては薬剤の効果が低下するため発生初期に防除を行う。
- 4) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一RACコードの薬剤は連用しない。

3. 資料



図－1 秋田市防除適期決定ほのフェロモントラップにおける誘殺数の推移



図－2 能代市防除適期決定ほのフェロモントラップにおける誘殺数の推移

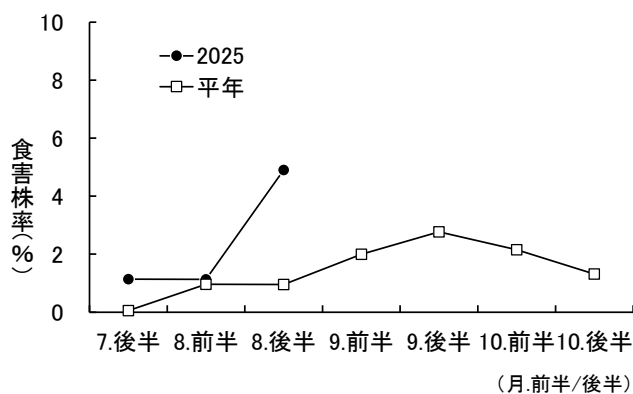


図-3 ねぎ（秋冬どり）の巡回調査による食害株率

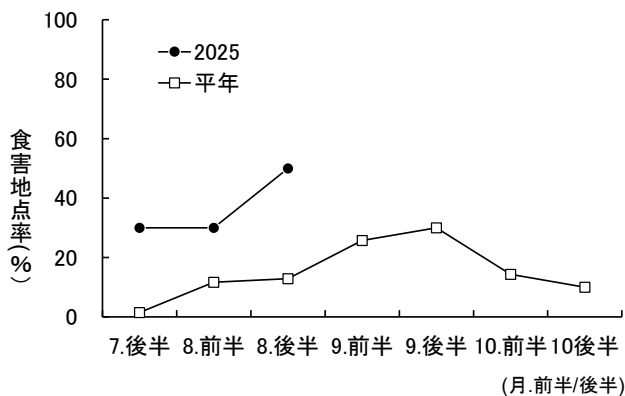


図-4 ねぎ（秋冬どり）の巡回調査による食害地点率



図-5 葉を食害するシロイチモジヨトウ幼虫



図-6 シロイチモジヨトウ幼虫による食害痕

表-1 ねぎのシロイチモジヨトウに対する防除薬剤

RAC コード	農薬名	希釈倍数	本剤の 使用回数	使用時期
3A	アグロスリン乳剤	1,000倍	5回以内	収穫7日前まで
3A	アディオソ乳剤	2,000倍	3回以内	
15	ノーモルト乳剤	2,000倍	2回以内	
30	グレースシア乳剤	2,000倍	2回以内	
11A	ゼンターリ顆粒水和剤 ^{*1}	1,000倍	—	発生初期 但し
11A	デルフィン顆粒水和剤 ^{*2}	1,000倍	—	収穫前日まで
5	ディアナSC	5,000倍	2回以内	収穫前日まで
28	ベネビアOD	2,000倍	3回以内 ^{*3}	

*1: 作物名「野菜類(キャベツ、はくさいを除く)」での登録

*2: 作物名「野菜類」での登録

*3: シアトラニリ[®]ロール(4回以内(定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内(但し、株元灌注は1回以内)))

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>